

日本NGO連携無償資金協力 事業の成果に関する詳細報告

基本情報	
(1) 案件名	医療機器輸送事業 (The transportation of medical machinery project)
(2) 贈与契約締結日 及び事業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 贈与契約締結日：平成 22 年 12 月 13 日</li> <li>・ 事業期間：平成 23 年 3 月 18 日～平成 23 年 4 月 17 日</li> <li>・ 延長事業期間：1 ヶ月 平成 23 年 5 月 16 日まで</li> </ul> 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により貨物輸送のスケジュールに混乱が生じ、貨物の到着が予定を大幅に遅れたため
(3) 供与限度額 及び実績（返還額）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 供与限度額：2,095,810 円</li> <li>・ 実績：2,095,810 円（返還額：0 円）</li> </ul>
(4) 団体名・連絡先、事業担当者名	(イ) 団体名：特定非営利法人ハートセービングプロジェクト (ロ) 電話：03-3487-9006 (ハ) FAX：03-3418-0917 (ニ) E-mail：hsp@m01.itscom.net (ホ) 事業担当者名：宇佐美 博幸 事業申請書記載の事業担当者からの変更はございません。
(5) 事業変更の有無	事業変更の有無：無

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>モンゴル国立癌センターに2台、モンゴル国立母子保健センターに1台の新たなエコー機が寄贈されたことにより、国立病院2ヶ所に基本的な検査に必要である機器が導入されたことは、来院する不特定多数の患者の健康向上に大変役立ちます。</p>
(2) 事業内容	<p>(1) モンゴル国立癌センターの肝臓部門には今までエコー機が一台もありませんでした。モンゴルでは飲酒の習慣、肉食中心の食生活、肝炎等、肝臓にトラブルのある患者が多いにもかかわらず、十分な検査が実施できない状態でした。今回、肝臓専門のエコー機が2台導入されたことで検査の充実が図られることとなります。</p> <p>(2) モンゴル国立母子保健センターには経過年数が少なくとも20年以上というエコー機が3台ありましたが、うち1台は使用不能、2台は5分の連続使用で過充電となり5分電源を切らないと使用できない状態でした。今回、新しいエコー機が導入されたことにより、連続してエコー検査を実施できるようになりました。またエコー画像はそれまで使用していたものと比較し、大変鮮明なため診断もしやすくなったと現地医師からも感謝の声が上がっています。(写真資料を別添)</p>
(3) 達成された効果	<p>今回のエコーの提供により、国立癌センターでは少なくとも年間約3000人、国立母子保健センターでは少なくとも年間約2000人ほどの患者がエコー診断を受けることができます。</p> <p>また、2つの病院の医師にとっても、不便な状態から脱して大変診断しやすい状況になったことで、モチベーションが大変上がりました。</p> <p>現在、鉱山開発などの影響で格差社会が進みつつあるモンゴル国では、保険外適用の私設病院がいくつか出来ています。そうした私設病院の設備は最新ですが、診療費用は大変高額で、一般国民が負担できるようなレベルではありません。これに対して国立病院へ通院する患者は一般の国民です。国立病院の設備は以前からさほど進歩がなく、年代物の検査機器を使用し続けています。今回国立病院に新たな検査機器が導入されたことは、一般国民にとって大変メリットのあることであると同時に、公務員の医師にとって労働意欲の増加につながり、今後のモンゴルの医療にとって計り知れない貢献となるものです。(写真資料を別添)</p>

(4) 持続発展性	<p>機器の今後のメンテナンスについては、エコー機をハートセービングプロジェクトへ無償提供して下さった日立アロカメディカル株式会社のモンゴルでの業務提携先企業C I T (501 Business Plaza, Chigis avnue, Sukhbaatar district Ulaanbaatar, Mongolia) が定期的の実施いたします。消耗品については現地で入手が可能です。</p> <p>(1) 国立癌センターでは、日本の医科大学へ留学生が複数帰国して医師となっているので、機器の使用については全く問題なく使用できます。</p> <p>(2) 国立母子保健センターについては、われわれ特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクトが年2~4回渡航した際に、所属の日本人医師が現地医師を実地で教育しています。その中でエコー機の画像診断方法、検査の方法などを具体的に指導しております。今後もハートセービングプロジェクトの渡航治療活動を継続し、その中で医師の教育も続けてまいります。</p>
-----------	---

3. 事業管理体制、その他	
(1) 特記事項	特にありません。

完了報告書記載日：2011年6月1日

団体代表者名：

特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト

理事長 羽根田紀幸 (印)

事務局 宇佐美博幸 (印)

【添付書類】

- ① 事業内容、事業の効果に関する写真
- ② 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ③ 外部監査報告書